

駅南だより

2021. 3月号 Vol. 70

えきなん探検隊

市川駅南口図書館周辺で見かける、印象的なマークや場所の一部を撮影し、しりとりで繋いでみました。皆さんの記憶の中に、どれだけ思い当たる場所があるでしょうか。周辺に出向いたさいは、ちょっと意識して探してみてください。最初は、「えきなんだより」からスタートします！

スタート！



市川のあけぼの

市川の歴史について、
数回にわたってお伝えします。

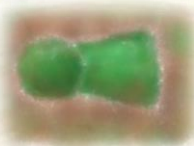
④古墳時代

3世紀末から7世紀までを古墳時代と呼びます。

弥生時代には「邪馬台国」などの小国連合が存在しましたが、それらは3世紀には畿内を中心とする「大和政権」によって統一されていきました。また巨大な「前方後円墳」（「百舌鳥・古市古墳群」）も造られるようになり、それらは大和政権の拡大により次第に全国へ広がっていきます。市川には「弘法寺古墳」（弘法寺境内）、「明戸古墳」（里見公園内。箱型石棺2基のみ）、「法皇塚古墳」（東京医科歯科大学構内）の3つの前方後円墳が現存しています。中でも「法皇塚古墳」は下総南西部では最大のものです。

これらは「後期（6世紀後半）」に分類され、埋葬方法は「横穴式石室」ですが、埋葬品は中期の特徴である「甲冑」「太刀」「馬具」などの武具が多く出土しています。

木更津や富津には4世紀前半には古墳が造られていましたので、市川が大和政権に服属したのは比較的遅い時期であったと言えます。



参考文献：

『市川市史 第1巻』 市川市史編纂委員会／編集 市川市 1971年
『市川の歴史』 中津 攸子／著 市川よみうり新聞社 2002年

館長の本棚

館長が選ぶおすすめの本を、
コラムとともに紹介します。

「痛み」と「重さ」

見られたくなく、でも見ていたい。世間から逃れようとしても、そうはさせじと寄り添ってくる世間の圧や、それに耐える自分の身体の重みに押し潰されそうになる。自分の行為に世間的な価値を帯びさせようとする眼差に対してどんな「スタンス」を取ればいいのか、思い惑う。思春期というのはそんな時代なのかもしれません。

当時19歳で第130回（2004下期）芥川賞を受賞した綿矢りささんの『蹴りたい背中』、そして21歳で第164回芥川賞（2020下期）を受賞した宇佐見りんさんの『推し、燃ゆ』は、同世代の視点から、共に高校一年生の主人公の物語を編み上げます。

『蹴りたい背中』の「私」は、「せめて周りには聞こえないように」「気怠げに見せて」「ま、あなたたちを横目で見ながら」という「スタンス」のクラスから浮いている女の子。やっぱりクラスから浮いているモデルのオリちゃんを“推し”の「にな川」くんには「見て」もらいたくて、彼の丸い背中を蹴る「私」。

『推し、燃ゆ』の「あたし」は、アイドルグループの青担当の上野真幸「推し」。「お互いがお互いを想う関係性を推しと結びたい訳じゃない」女の子。そして「あたし」は、関係の網の目に絡み取ろうとする世間の要請の重みに押し潰されそうに喘いでいる。

「推し」がキーワードのこの二つの作品に横たわる16年の間隙。それぞれ時代のある思春期の感性の「カタチ」を読み比べる・・・、うーん、ちょっと深読みかなあ・・・



『推し、燃ゆ』
宇佐見 りん／著
河出書房新社 （913.6 う）



『蹴りたい背中』
綿谷 りさ／著
河出文庫 （B913.6 り）

司書たちの休息

駅南の司書たちがそれぞれの好きなことや、
おすすめなどを伝えます。

3月の声を聞くとそわそわします。高校野球の対外試合も解禁となり、プロ野球も開幕。待ちに待ったシーズンの始まりです。野球はなんと言っても球場での生観戦につきます。そこでは冬を越えて一回り大きくなった選手達に会えます。

さて近隣の球場を個人的にランキングさせていただくと、まずは<特別枠>『ファイターズ鎌ヶ谷スタジアム』（通称：鎌スタ）、<3位>緑あふれる『柏の葉公園野球場』<2位>夢の国のお隣にできた『浦安市運動公園野球場』です。柏の葉も浦安もそれは立派なボールパークです。が、<1位>はやはり地元から。昭和感満載、桜の似合う『市川国府台球場』（国府台1-6-4）です。現在は改修中ですが、以前は試合がある日には、おにぎり、スイーツ、水筒、虫よけを携えて朝から駆け付けたものです。右（真間山）から行っても、左（和洋女子大前のバス通り）から行っても心臓破りの坂道で自転車を捨てたくなります。両翼が短いのでシートノックの打球がホームランになってしまう事もあった愛すべき球場。70年以上にわたり昭和・平成の球児たちの汗と涙を見守ってきた球場と桜の木々。球場が完成する2年後、令和の球児たちによる新たなドラマも今から本当に楽しみです。

展示・イベント報告

パソコンやスマートフォンなどを使って、オンラインでやり取りをする「ZOOM(ズーム)」を利用したイベントを各種開催しました。



オンラインおはなし会

12月28日、対象年齢を分けて午前と午後にそれぞれ実施。絵本その他、わらわうたや手遊びなどを交えながらの30分を、楽しんでいただきました。9組参加。



新春えきなん寄席

1月16日、閉館後の館内を会場に、講談、音曲、動物ものまねを披露してくださいました。画面越しでも、芸の素晴らしさが伝わったかと思います。34名参加。

ナクソス・ミュージック・ライブラリー使い方講座

2月14日、提供元のナクソスジャパンから講師を招いて、基本的な使い方を教えていただきました。検索や、聞き比べなど、新たなクラシックの楽しみが広がりました。11名参加。

編集後記

「春が来ると自然の生物界が急ににぎやかになる。（略）遠くさかのぼれば長い冬の間から初春へかけて、一見活動の中止しているように見える植物の内部に行なわれていた変化の積算したものが発現するものと考えられる」（「春六題」寺田寅彦）。とまっているような時間の中で、ひそかに、着々と準備をしていると、いつか蕾はふくらんで、笑顔といっしょにほころびます。はやく来いと呼びかけたいのは春だけじゃありませんが、たのしい準備やはじまりの季節、えきなんをお役立ていただけたら幸いです。（副）

市川市市川駅南口図書館 （指定管理者 ㈱ヴィアックス）

〒272-0033 市川市市川南1丁目10番1号 I-link タウンいちかわ ザ タワーズ ウエスト3階
【TEL】 047-325-6241 【HP】 <http://www.ekinan-lib.jp>

和洋女子大学×駅南 連携企画 千葉県の郷土料理を楽しむ



❀ 第3回 ❀ 菜の花の白和え

千葉県の野菜について

千葉県は海に囲まれているので、おいしい海の幸も多いのですが、野菜も1年を通して、新鮮なものが豊富に入手できます。

塩で保存する必要がほとんどないため、千葉県の郷土料理には漬物がありません。冬でもねぎ、小松菜、ほうれん草、大根、白菜等、新鮮な野菜が地元で採れます。そして、2月になればもう春野菜の季節になります。

房総の菜の花畑の黄色は春のシンボルです。

今回は、春に1度は必ず食べたい千葉の菜の花を使った、白和えをご紹介します。

電子レンジの水切りや、マヨネーズを使っの手軽なコクのある白和えです。

*第1回でお知らせした「七色ぜい」はお盆の料理なので、今回は菜の花を使った野菜料理にしました



作り方（菜の花の白和え）

【材料】(*2人分)

菜の花…100g(1/2束)

砂糖…小さじ1

白いりごま…大さじ1

木綿豆腐…小1パック(150g)

しょう油…小さじ1

マヨネーズ…小さじ2

塩…少々

①菜の花は沸騰したお湯で2分程度ゆで、水にとって冷ます。

②太い茎は半分に割り、3cm位に切って軽く絞る。

③豆腐は電子レンジ500Wで3分間加熱し、水分を蒸発させて、キッチンペーパーで包んで冷ます。(豆腐の水切りは電子レンジ加熱が便利です)

④ポリ袋に③を入れ、手でしっかり豆腐を潰す。

⑤すべての調味料を④に入れ、さらによく潰しながら豆腐と調味料を混ぜる。

⑥ボールに移し、菜の花と合える。

完成!



おわりに

和洋女子大学×駅南の連携企画は6年前にスタートしました。

これまで、家政学部の「健康栄養学科」や「家政福祉学科」の学生、さらに大学院の「総合生活研究科」の院生が、毎日の食生活を豊かに、あるいは健康的にするためのコラムを担当してきました。

それらをまとめた2冊の冊子は、駅南図書館や和洋女子大学で配布しています。

2021年度からは、新企画・看護学部と駅南のコラボになります。

世界中コロナ禍で、命を守る生活が求められています。新連載にご期待ください。

素敵な記事を
ありがとうございました❀



今月の
担当

和洋女子大学大学院総合生活研究科 研究科長 柳澤幸江 博士(栄養学)
(咀嚼と健康・健康的な食事について研究しています)